

がんと言われたときから始まる緩和ケア

緩和ケアは、がんが診断されたときから始まります

がんが診断されると落ち込むこともあります。また、診断を受けたときには、すでに痛みや息苦しさなどの症状がある場合もあります。緩和ケアは、そのような落ち込みや症状に対して、がんが診断されたときから始まります。

緩和ケアは、がんが進行してから始めるものではありません。がんの治療とともに、つらさを感じる時にはいつでも受けることができます。

■ がんに伴う心と体のつらさの例

気持ちのこと	社会的なこと	人生に関すること	体のこと	治療によって生じること
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 不安で眠れない ✓ 何もやる気が起きない 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 働きたいけど、働けない ✓ 子どもの世話ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 生きる意味 ✓ 将来への不安 ✓ 家族に迷惑をかけたくない 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 痛い ✓ 息苦しい ✓ だるい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ しびれる ✓ 食べれない ✓ 外見が変わる

緩和ケアは、このようながんに伴う心と体のつらさを和らげます。

がんによる痛みに対して医師から処方された医療用麻薬を使うときには、依存や中毒は起こりません

がんによる痛みがあり、その治療のために医師から処方された医療用麻薬を使うときには、依存や中毒は起こりません。安心して治療を受けましょう。

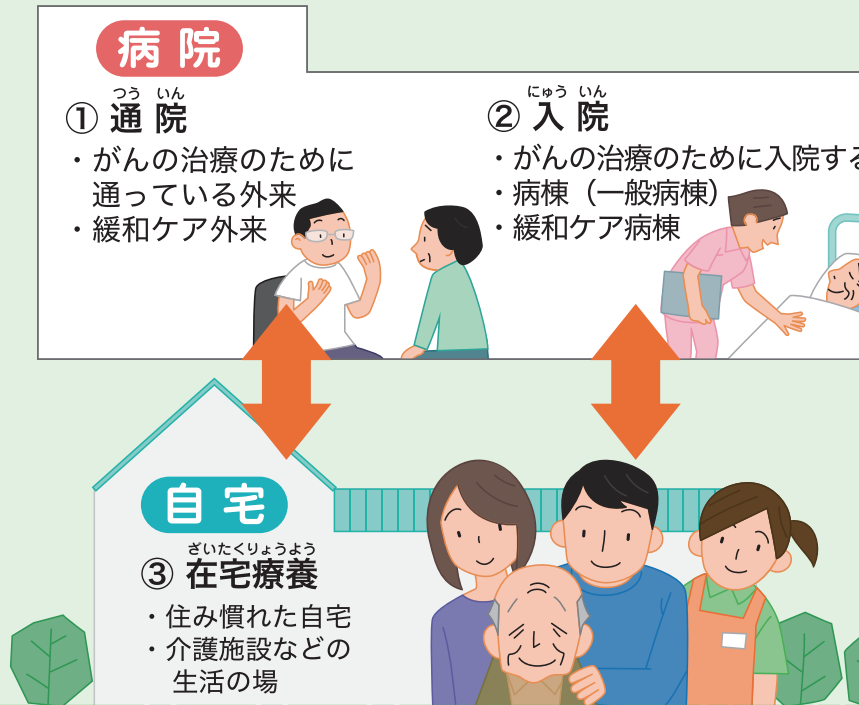
痛みが和らぐことで、ぐっすりとお休みことができ、生活しやすくなります。がんによる痛みは、多くの方が経験する症状ですが、緩和ケアによって、80%以上の人の痛みが和らいだという報告もあります。

日本では、医療用麻薬に対して、「依存性がある」「最後の手段である」という誤ったとらえ方をしている人が多いようです。医療用麻薬について不安なことがあるときには医師や薬剤師に相談しましょう。

緩和ケアを受ける場

緩和ケアを受ける場は、大きく【通院・入院・在宅療養】の3つに分けられます（自宅で受ける緩和ケア）

■ 緩和ケアを受ける場

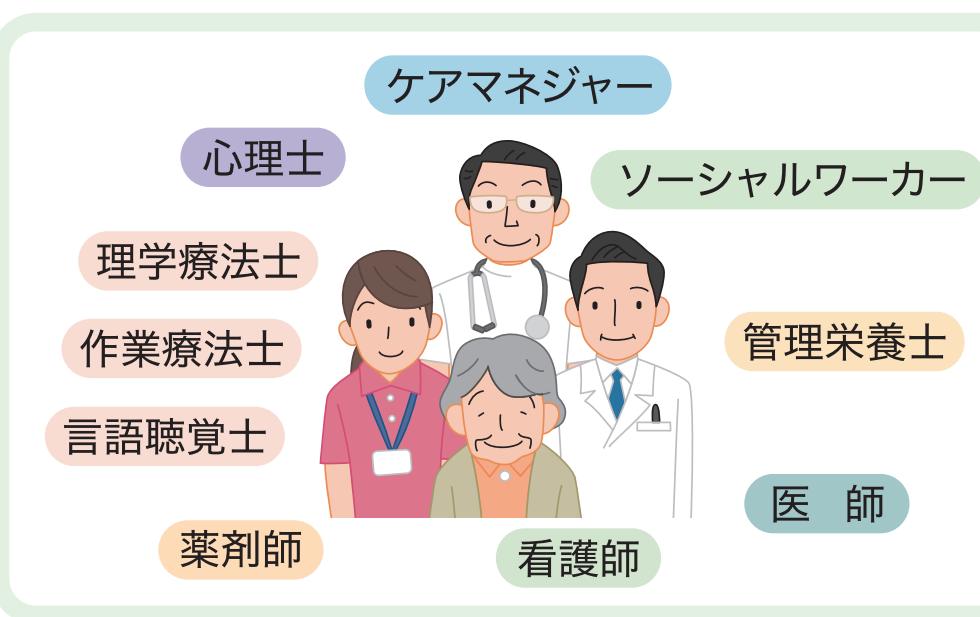


緩和ケアは、全国のがん診療連携拠点病院であればどこでも受けることができます。病院では、通院でも入院でも受けることができます。また、自宅でも受けることができます。がん診療連携拠点病院以外の病院でも受けることができます。

緩和ケアチーム、がん相談支援センター

さまざまな専門職からなるチームが支えてくれます

■ さまざまな専門職からなるチーム（緩和ケアチーム）の例



緩和ケアは、基本的には担当の医師や看護師から受けますが、必要に応じてさまざまな職種の方がチーム（緩和ケアチーム）となって支えてくれます。

《がん相談支援センターにご相談ください》

がん相談支援センターは、全国の国指定のがん診療連携拠点病院などに設置されている「がんの相談窓口」です。緩和ケアに関する情報も得ることができ、患者さんやご家族だけでなく、どなたでも無料で面談または電話によりご利用いただけます。

相談された内容がご本人の了解なしに、患者さんの担当医をはじめ、他の方に伝わることはありません。わからないことや困ったことがあればお気軽にご相談ください。